

## 飛鳥資料館の秘蔵物(2) 漏刻模型 —時を司る—

飛鳥資料館のロビーでは現在、漏刻模型を展示しています。漏刻とはサイフォンの原理を利用した水時計ですが、当館の模型は中国の故宮博物院に遺されている清代の漏刻を参考にしてつくっています。おそらく、飛鳥の水落遺跡にも四段式の似たような形状の漏刻があり、飛鳥や藤原の人々に時を知らせていたのでしょう。

しかし、当館のロビーで展示している漏刻模型は姿形を再現しているだけではありません。漏刻の人形が手にしている箭(目盛りが付いた棒)をよく見ていただくと、少しずつ動いているのがおわかりになるかと思います。これは模型内で水を実際に循環させて、実際の速さの48倍にして漏刻の動きを一部再現しています。当時は、この箭の動きによって時間を計っていたのです。目盛りの動きは本当に小さなものですが、都の時を管理する上では大きな意味を持っていました。飛鳥時代の陰陽寮の漏刻博士たちも同じように、きっと少しずつ動く箭に目を凝らしながら時を計っていたことでしょう。飛鳥時代の時を司った漏刻を見ながら当時のお役人の気分に入るのも一興かもしれません。(飛鳥資料館 成田 聖)



開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで、月曜休館) お問い合わせ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会  
発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>  
Eメール [jimu@nabunken.go.jp](mailto:jimu@nabunken.go.jp)  
発行年月 2012年6月